

最初のメッセージ

2022. 1. 26

1月も下旬となると、次年度、令和4年度の教育活動の全体像が見えてくる。スタートは、4月6日である。学級担任ともなれば、生徒に向けて最初にどんなことを言おうかと考える。これが、最初のメッセージとなると思いきや、実はそうではない。

多くの先生方は、生徒が登校してくる前に、前日のうちに、黒板にメッセージを書いている。私も、学級担任をしている頃は書いていた。これが難しい。いや私には難しかった。簡単に言えば、センスがないのである。

ふと思い立って、他の教室の“偵察”に行ったことがある。見なければよかった。そこには、短いながらも温かなメッセージや思いのつまったものなどがあつた。詩の一節や名言もあつた。色チョークで鮮やかなイラストや絵を描く方もおられた。

どの教室も、担任のやる気と愛情が溢れていた。私の場合はというと、どうも気の利いたフレーズが出てこない。それでも何かしらは書いていた。教室の掲示板は、ほころびや汚れが目立たないように、一面に色模造紙を貼った。そんなことしかできなかった。

自分には自分のやり方がある。学級通信の第1号を、一人一人の机の上に、丁寧に置いていく。学級通信の紙面のほうがメッセージを書きやすい。そう考えた。生徒たちとの最初の出会いである。生徒たちは、どんな思いで黒板や学級通信のメッセージを読むのだろうか。そこには、期待しかないだろう。その大きな期待に応えなければならない。いつも、そんなことを考えていた。

私の経験から、“偵察”はよい。勉強になる。刺激になる。4月6日に限らず、各教室の掲示物を見にいったりするとよい。教室の後ろのロッカーの使い方を見るのもよい。教室ごとに、入ったときの印象が違う。

黒板の端の方に、マグネットでいろいろと貼ってある教室がある。貼れば貼るほど、授業で使えるスペースは狭くなる。そもそも生徒は、思った以上に黒板の掲示物を見てはいない。人は見ようとしないものは見えないのである。

黒板は、最大限、授業者に使ってもらったほうがよい。極論を言えば、黒板には、全面何も無いのがよい。実際には、黒板の右端に、縦書きで日付と日直の氏名が書かれてある。あれは、なぜ縦書きなのだろうか。長年の慣習というものだろうか。確かに格好はつく。

窓や扉、壁にまで掲示物を貼ってある教室がある。やりすぎである。貼ればよいというものでもない。生徒が落ち着いて生活でき、活動しやすく、集中して力を発揮できるような配慮を第一に考えるべきである。

こう考えると、教室設計も、生徒へのメッセージなのかもしれない。まだまだ先ではあるが、4月5日（火）の夜に、各教室の偵察に行くことを今から楽しみにしている。担任の先生方のカラーが一番出やすいときである。そんな瞬間を逃してはいけない。